

Letters

Arpak

レターズアルパック

VOL.230

ISSN 2432-5295

つとめて

C O N T E N T S

◆【つとめて】…01～04

- ・お勤め 職業倫理 ・ジャガーを買いました
- ・年相応のおつとめ～某寺住職との出会いから～
- ・ライフ × ワーク＝ボランティアの時間 ・在日ベトナム知識人コミュニティの最大級サミットの広報担当を務めて ・ふゆはつと（夙）めて
- ・都市計画学会関西支部事務局を務めて

◆今、こんな仕事をしています…05～07

◆新人紹介…08

◆事務所だより…08

◆近況＆イベントのお知らせ…09～10

◆まちかど…裏表紙

- ・「芦屋川駅前・暮らしまちづくりビジョン」を地域でつくろう

つとめて

前号では「みのり」というテーマに関連してコレクティブ・ジーニアスについて触れました。アルパックは豊穣な「みのり」が生まれるよう努力する凡人の集団であると。一生懸命に頑張るのです。

今号は「つとめて」。努・勉・務・勤などいろいろな字があてられますが、意味は概ね一生懸命に頑張ること。名詞として使うときは早朝や翌朝という意味になります。漢字にすると「夙」だそうです（「夙」には別の意味もあるようですが）。ネガティブに考え過ぎてしまいがちな夜に比べて朝は頭もフレッシュでポジティブ。英文学者の外山滋比古氏も朝飯前の時間帯が最も能率的に仕事ができると指摘していました。つまりどちらの場合も「つとめて」にはポジティブな意味があると言えそうです。ポジティブに頑張るアルパックのメンバーを見守っていただけると幸いです。

レターズアルパック編集委員会

お勤め 職業倫理

三輪泰司：
名誉会長



元・禁裏御用商の例：江戸末期の建築

「禁裏御用」とは何ですか？」と、ご質問を頂いております。

王室御用達

イギリスにはロイヤル・ワラントと言って、王室に商品をお勤め、或いはサービスをお勤めする業者に、納入許可証が発行され、紋章を店に掲げたり、パッケージに印刷したりできる制度があります。

その5年毎の審査は厳しく、場合によっては剥奪されることもあります。紅茶のトワイニングや洋服のバーバリー、チョコレートから洗剤まで多種多様で、お店の多くはバックingham宮殿近くの街の中にあつて、普通の市民でも、旅行者でも求めることができます。

禁裏御用達

わが国でも似たことで、昔、京都御所の近くに、宮中へ品物やサービスを納める業者がたくさんありました。これを「禁裏御用」と呼んでいました。装束・冠・扇子・人形・履物、日用の食器、米・酒・味噌・野菜・魚・菓子・香などから、建物の普請まで多種多様で、元禄期には宮中お出入りの商人・職人は300人程もあつたという記録があるそうです。

品質保証と文化的風土

洋の東西で共通しています。高貴な方とは教養があり眼が高く、その方々の好みに適い、ご愛用頂くことは、商品・サービスの品質が確かであると証明されている、つまり値打ちが上がり、信用がつくという点では同じでした。従ってどちらも厳正な審査制度を設けてきました。しかし、イギリスと日本では、違いがあります。

イギリスは、女王と夫君及び皇太子、お三方個人の「好み」が前面にあつて、各々方の紋章が与えられるのですが、日本では宮内省（戦前）なり宮内庁の「御用達制度」でもって許可や表記がなされ、どなたかの「好み」は後に付いてくる感じで、各々方の「紋章」はありません。

御用達制度の今昔

現在、宮内庁御用達の制度はありません。昭和29年（1954年）に廃止されました。表向きは職業の機会均等ですが、その背景には、明治24年（1891年）の「宮内省御用達制度」時代に、しばしば御用の濫用を禁止するお達しが出されていたように、業者の側に御用達を広告宣伝に利用する者が後を絶たなかったことがあります。現在、宮内庁の物品・サービスの調達、他の官庁同様に入札制が一般です。

商道德・職業倫理

こんにち、ほんものの元禁裏御用商であつたお店では、その誇りは伝え、品質保持に努めています。商品や広告に表示することは厳しく慎んでいます。

その多くは、何代も続くいわゆる老舗です。なにぶん、1200年間も首都であり続けた京都です。永い歴史の中には、禁裏との深い物語もあります。宮家や公卿ともお付き合いがありますが、自分から宣伝することはありません。

現代の消費者は、そのようなお店で、御所出入りの鑑札などが文化財産としてさりげなく展示されていて知ることにはできますが、「禁裏御用達」と銘打った品そのものを求めることはできません。

得られるのは、京都の商人や職人の、職業の品格を守り高める凛とした「心」なのです。

そして、国民の上に立つ、王室・皇室には、「誠実」「倫理」が求められるのです。ひいては、大統領・宰相、さらには会長・社長なども誠実であることが問われます。アルパックは最高の規範を「倫理規定」とし、社員を縛るのではなく、トップが心得るべき規範としている所以です。

ジャガーを買いました

小島みのり：
都市・地域プランニンググループ

小さい頃から続けてきたピアノを辞め、音楽は好きだから何か楽器は続けていたいけど、失敗すると怒られるし、練習嫌いだし、楽譜読むの苦手だし、辛いなあ…と思っていた頃。「英会話教室で、ついでにギターを教えてくれるアメリカ人の先生がいるらしいよ」と、母親が変わったギター教室を見つけてきました。何それ面白そうと直感で思った私はすぐに飛びつきました。

そんなわけでギターを始めることになり、15年ほど経ちます。



「で、なんのためにそんなに続けているの？」的なことを聞かれることがあります。いつも答えて困ってしまいます。バンドを組みたい訳でも、憧れの人がいる訳でもありません。音楽との接点がどこかにあれば満足なのです。今でもたまに教室に通い、今まで触れてこなかったような曲を教えてもらったり、気になるアーティストの曲を持ち込んだりして続けています。最近はインスト系やアンビエント系を極めてみようかと思っており、エフェクターで音加工してはなんか違うなあ…と試行錯誤を繰り返しています。

ちなみに、ジャガーというのは最近買ったギターのことで、二番目くらいに好きなギタリストが良く使用していたのですが、妙に気になり買ってしまった。店員さんに若干止められたくらい癖の強いギターなので使いこなせるようになる様、努めます。



年相応のつとめ ～某寺住職との出会いから～

石井努：
地域再生デザイングループ



名前から「出オチ」？になっていますが、今号のテーマは「つとめる」ということで、「勤め」「務め」について書かせていただこうと思います。

「勤める」

「お勤め」と聞くと、「寺院」を連想される方もおられると思います。学生の頃、寺院雑務のアルバイト求人が目にとまり、何を思ったのか、応募のため某寺院を訪ねました。市内では観光寺院として多くの集客があり、当時の住職の楽しい話目当てに訪問される人も多い賑わいのあるお寺でした。

住職と1時間程お話をし、「若い人は年相応のおつとめをしなさい」と諭され、お茶菓子とありがたい法話をいただき、そのまま帰路につきました。

年相応の「務め」

「年相応」という言葉はあまり好きではありませんが、この年になると、当時の住職の話も何となくですがわからなくなもなかなと、原稿を書きながら思いつきました。

お話をうかがった住職は既に亡くなられています。20歳そこそこの若い学生相手に、真剣にお話いただいたのは、「若い時にはもっといろいろなことに

チャレンジしなさい」という意味だったのだと思えるようになりました。

当たり前といえばそれまでですが、それなりに年齢を重ねておられた住職は、アカの他人である若者に人生の教訓を与え、という役割を果たしていたのだと思います。それは「勤め」であったかもしれませんが、社会の先輩としての「務め」も果たしていただいたのでは、とも思います。

では今の自分は？

では、振り返って、自分は年相応の「務め」が果たせているのか？仕事、地域、家庭等、それぞれの場面で果たすべき「務め」の内容は異なりますし、住職のように「勤め」を通じて「務め」を果たすという局面も増えてきているのではと感じていますが、それなりに「務め」は果たしているかな？と思うものもあれば、まだまだ足りていないかも、と感じている「務め」もあります。

今更ながらですが、住職の教えを今一度思い出し、年相応ではないかもしれませんが、その時に果たしていける「務め」を全うしていけるよう、「努めて」いきたいと思っています。

ライフ×ワーク ＝ボランティアの時間

依藤光代：
都市・地域プランニンググループ

新型コロナウイルスの感染が拡大し始めたころに、出産して育児をいただき、同じタイミングで夫の転勤が決まったため、名古屋市から静岡市に引っ越し、現在はリモートワークに取り組んでいます。今回は、私が今務めている「学習支援ボランティア」を中心に、仕事と家庭の間の時間に触れたいと思います。

引っ越してから、地域で新しく立ち上がった学習支援ルームにボランティアとして参加するようになりました。発達の関係や不登校など様々な事情で学校の勉強についていけない子どもが集まり、大人が無償で勉強をみる場で、月2回程度週末に開設されています。よく耳にするようになった「こどもの貧困」も視野に入れ、「貧」は公的な支援が必要だけど「困」は身近な大人がサポートしていこう、という考え方に基づいており、勉強も求められればもちろんみえますが、家以外の場所で「居てもいいんだ」と感じられる場所になれるように、こどもと関係性を築くことを重視して取り組んでいます。

私もボランティア募集を見つけたわけですが、ほかにユニークな特技や特性、経歴を持つ人が

が集まってきていて、とても刺激的な場となっています。ある場が新しくできることで、困っている人の助けになりたいと考えていた人が行動し始め、スキルや情報が集まってくるわけです。その場はまた、スタッフ間や関係団体とのネットワークを豊かにする場でもあり、それらの関係性を通して情報やスキルが共有され、地域内の他の場合も含めて取組みが全体的に充実していくという、ダイナミックな展開が起こりつつあります。

ところで、長男が来年小学校入学を控えており、私が学校教育の環境に関心をもったことがボランティアの動機になりました。ライフとしても関心があり、ワークにもいづれ経験が役立つ可能性がある領域として、「ライフ」でも「ワーク」でもない「ライフ×ワーク」として活動を位置づけています。使える時間は限られています。私自身の暮らしの質を高めるためにも、いいバランスを見出していくことに努めたいと思います。

子育てしながらまちづくりをされている読者の中で、ワークとライフのバランスで悩まれている方などいらっしゃるれば、感想等をお送りいただけると幸いです。



在日ベトナム知識人コミュニティの 最大級サミットの広報担当を務めて

ホアンゴックチャン：
地域産業イノベーショングループ

在日ベトナム知識人コミュニティが約1000人しかいなかった1990年代と比較すると、近年のベトナム知識人コミュニティは質と量の両方で大きな進歩を遂げています。そのような知識人コミュニティの急速な発展により、在日ベトナム人学術ネットワーク(VAN)

Vietnamese Professionals in Japan (VPJ)、在日ベトナム青年学生会(VYSA)、Vietnam Japan Open Innovation Network (VJOIN)をはじめ、ベトナムの科学者協会や知識人協会を設立する必要性が生まれました。この発展に伴い、専門家、科学者、政策立案者及び企業者の豊富な知識を結び付け統一し、在日ベトナム知識人コミュニティの構築と発展を支援するためのイニシアチブを考案し、ベトナム全体の発展に貢献することを目指すベトナム共通知識人フォーラムが整備されました。去る11月に最大級のサミット「Vietnam Summit in Japan」が、VAN、VPJ、VYSA、VJOINの4団体共同で開催されました。私は当サミットの共同主催者であるVPJの副理事長として、イベントの広報全般を担当させていただいたのでご紹介します。

開催概要

日時…2021年11月20日～21日

開催形式…ZOOM & ライブ配信

参加費…無料

言語…ベトナム語

規模…1000名

主催者…在日ベトナム大使館とベトナム国家イノベーションセンターのご後援のもと、次の団体との連携にて開催されました。

◆在日ベトナム知識人協会

(Association of Vietnamese Intellectuals in Japan, AVIJ)

◆一般社団法人在日ベトナム人学術ネットワーク (Vietnamese Academic Network in Japan, VAN)

◆一般社団法人 Vietnamese Professionals in Japan

(Vietnamese Professionals in Japan-VPJ)

◆在日ベトナム青年学生会

(Vietnamese Youth and Student Association in Japan, VYSA)

◆一般社団法人 Vietnam Japan Open Innovation Network (VJOIN)

■取材申し込み、プレスリリース等に関するお問い合わせ先

E-mail:

organizers@vietnamsummit.org

広報担当: Hoang Ngoc Trang

今後とも日本とベトナムのかけ橋としてお手伝いしていきます。

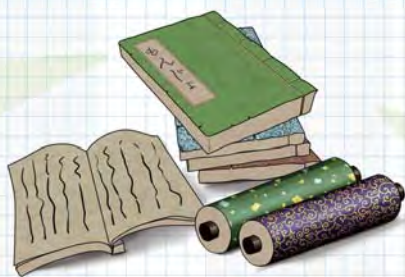
ふゆはつと（夙）めて

植松陽子：

サスティナビリティマネジメントグループ

寒さ厳しい早朝こそがなお良
いと、清少納言は「枕草子」で
詠っています。
平安時代は、地球の「中世温
暖期」とも言われ、気候が温暖
だったと言われています。それ
でも暖房がない時代に、ヒート
テックを着ることなく、炭でお
こした火鉢のみで過ごす朝を想
像すると、身に染みる冬の寒さ
が想像できます。
私が子どもの頃には、早朝と
は言わないまでも、キンと透き
通った空気の中、白い息を吐き
ながら、霜をサクサクと踏みし
め、水溜りの氷をワザとツルツ
ル滑り、登校の道のりを満喫し
ていたことを思い出します。
大人になった今、霜がおりる
ほどの厳しい寒さは少なくなり
ました。とは言え、暖かき布団
の誘惑と格闘しながら、眠たい
まなこをこじ開けて始まる早
朝。朝ごはんや洗濯などの家事
にバタつき、時には力尽きた仕
事を朝やってしまいと、枕草子
の世界観にある早朝の良さを実
感できるゆとりある時間はな
なか過ごせていません。旅先で
あれば、暗がりの中で早朝風呂
を思う存分に楽しむのですが。
今回「つとめる」を考えたと
きに、枕草子の一節から、四季
の移ろいを日々五感で感じてい

たいという心の欲求と、そのた
めの「心のゆとり」の大事さを、
改めて痛感しました。
ところで、日本人の睡眠時間
は世界的に短く、2019年の
OECDの調査でも、欧米先進
国と比べて1時間以上も少ない
という結果が出ています。子ど
も達に目を向けると、勉強や習
い事、スマホ時間の増加に加え、
大人達の忙しさにもひきずら
れ、起床時間は徐々に早くなり、
就寝時間は遅くなる傾向にあり
ます。
大事にしたいこと、時間の使
い方は、人それぞれの考え方や
正解があるでしょう。それでも、
気候変動で日本の四季に変化が
訪れてしまう前に、春夏秋冬の
良さを感じられる日々の
ゆとりと大切さを、子ども達に
も伝えていきたいと思っています
今日この頃です。



都市計画学会関西支部 事務局を務めて

橋本晋輔：

都市・地域プランニンググループ

年々活動が活況を呈しています。これまで10
年ごとに活動を振り返る機会と
して周年事業を行っています
が、今回も特別委員会を立ち上
げ周年事業に取り組んでいま
す。私も事務局、特別委員会委員
若手研究会のメンバーとして活
動に参加している中で、少しそ
の紹介をさせていただきます。
30周年特別事業として、関西
都市計画の10年の歩みの振り返
り、若手による次世代の都市づ
くりの展望、設立30周年記念
フォーラムの3つの事業を行っ
ています。
1つ目の関西都市計画の10年
の歩みの振り返りでは、この10
年の動向を「都市空間をマネジ
メントする技術」「自律型まちづ
くりへの新たな展開」などの5
つの視点から整理し、30周年記
念誌としてとりまとめました。



アルパック
は2013年
以降、都市計
画学会関西支
部の事務局を
務めており、
2019年以
降は私が担当
をしています。
関西支部は今
年設立30周年
になり節目の
年となっています。これまで10
年ごとに活動を振り返る機会と
して周年事業を行っています
が、今回も特別委員会を立ち上
げ周年事業に取り組んでいま
す。私も事務局、特別委員会委員
若手研究会のメンバーとして活
動に参加している中で、少しそ
の紹介をさせていただきます。
30周年特別事業として、関西
都市計画の10年の歩みの振り返
り、若手による次世代の都市づ
くりの展望、設立30周年記念
フォーラムの3つの事業を行っ
ています。
1つ目の関西都市計画の10年
の歩みの振り返りでは、この10
年の動向を「都市空間をマネジ
メントする技術」「自律型まちづ
くりへの新たな展開」などの5
つの視点から整理し、30周年記
念誌としてとりまとめました。

2つ目の若手による次世代の
都市づくりの展望では、2030
代の研究者、学生、自治体職
員、コンサルタントなどで構成
する「ライフスタイルが紡ぐま
ちの未来研究会」を立ち上げ、
2040年のトレンドやライフ
スタイルを想定しながら、将来
のあつたらしいなというシー
ンや未来の都市像をメンバーで議
論しています。
3つ目の設立30周年記念
フォーラムは、10月23日に、コ
ロナ禍の中の新しい生活様式
の試みとして、屋外のキセラ
川西せせらぎ公園で実施をし
ました。公園を利用する家族
連れの中で学会のフォーラム
を開催するというこれまでに
ない雰囲気、風や気温など
屋外ならではのアクシデント
もありましたが、新たな公共
空間の使い方を体験できるい
い機会となりました。
今後、若手の「ライフスタイ
ルが紡ぐまちの未来研究会」
については引き続き活動を行う
予定です。私自身にとっても新
たなつながりを広げる場、都市
の未来を柔軟に考える場として
貴重な機会であり、事務局とい
う立場とは別に今後も関わって
いきたいと考えています。

歩きやすい、歩きたくなるメインストリートを目指して

山道未貴：
地域再生デザイングループ



まちあるきの様子

ワークショップの様子

今後は、まちあるきで発見した通りの特徴を踏まえて、茨木のメインストリートの「ミミライ」をイメージし、通りの「コセイ」を引き出すために具体的な空間イメージについて考えていきます。

茨木市では、市の中心部をより多くの人が訪れ、滞在し、活動したくなるような「まちなか」にするための取組が進められています。

茨木市の中心市街地は、JRと阪急の駅間の約1.3キロメートルあり、その駅間を結ぶ中央通りと東西通りを「歩きやすい、歩きたくなる」メインストリートの形成を目指しています。

アルパックでは、メインストリートである中央通りと東西通りを、より魅力的な通行にするためのアイデアなどを考えるミーティング（勉強会）とワークショップの運営をサポートしています。

キックオフとなる勉強会は、9月16日にIBALAB @ 広場で、京都大学大学院の山口敬太先生

をお招きし、道路空間を活用した国内外の事例紹介や道路空間の活用に向けたポイントを教わりました。講演中には、スマートフォンを活用し質問や感想を参加者の方々が投稿し、リアルタイムで意見交換を行いました。

その後、10月17日のワークショップでは、まず参加者のみなさんとまちあるきを行いました。

その後、10月17日のワークショップでは、自身の視点に加えて、ツールを活用しながら、高齢者や車いす利用者、子どもを連れた親、自転車利用者など様々な利用者の視点を持つて、通りの魅力や課題、印象などを見つけました。

「空き家、空きテナントが増えており、寂しいな」「交通量が多く、歩行者と自転車車が錯綜している」といった意見から、「立ち止まって休憩できるようなスペースがあったらいいな」「時間限定でお店の前のスペースを活用できそう」といった道路活用の視点など様々な発見がありました。

市民とともに作る総合計画の実現に向けて

水野巧基：
公共マネジメントグループ



投票チラシ



まちのイメージコピーシール投票の様子（@関西学院大学）

兵庫県三田市では、第5次三田市総合計画の策定に取り組んでいます。

コロナ禍の影響で全国各地で今後のまちづくりの在り方について問われています。自分たちのまちの将来を示す総合計画では、市民やまちに関わる人たちの想いをいかに反映するかが求められています。

昨年からは市民アンケート、小中高生アンケート、ワークショップを行い市民だけでなく、三田市に関わる人たちとともに10年後の三田市について考え、総合計画（案）を作成し、パブリックコメントを実施しました（10月25日～11月24日）。また、市内で働く方や市内の

大学に通う学生によって構成された「三田市総合計画策定パートナーズ」とともに、あらゆる人たちの声をお聞きする方法等についても議論を進めてきました。

その結果、パブリックコメント期間とあわせて、「三田が目指すまちの姿」を多くの人と分かち合えるように、10年先のさんだをイメージする「まちのイメージコピー」を決めるための投票を実施しました。

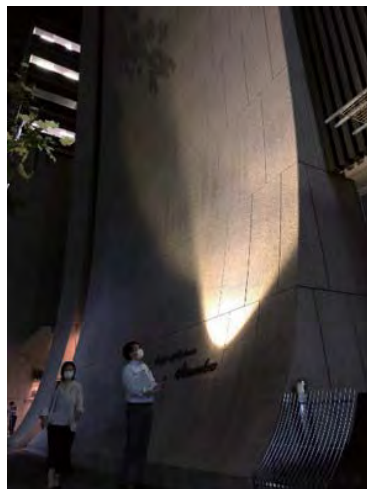
三田市に関わる人たちの想いを反映するため、WEB投票と直接投票（三田市内の施設や大学でのシール投票）を行い、約5000名の方から投票を頂きました。

『ひと』×『まち』×『こと』が織りなす未来三田の実現に向けて、三田に関わるあらゆる人たちと想いをともにする、まちのイメージコピーの投票結果については、現在集計中ですので、また三田市ホームページをご覧ください。

投票を頂いた方には、三田市内の約50店舗で利用できる「2022～2032さんだ未来パス」が発行され、市内の店舗でお得に買い物ができるといった取組も、パートナーズのアイデアで実施しています。10年後に向けて、市民とともに歩んでいく三田市に、是非一度訪れてみてください。

烏丸通の夜のあかりを探る ～烏丸通照明探偵団～

竹内和巳：
地域再生デザイングループ



皆さんは、京都の烏丸通と言えば、どんなイメージがあるでしょうか？

学生時代の私にとっては、立派な飲み会のおきだけ到達できる格式高い場所でした。今では京都事務所が四条烏丸で懷も少し暖かいので、当時と比べて身近になりました。

そんな余談はさておき、今年度は業務で、烏丸通の界限で事業・居住をする方々を中心として構成された「烏丸通まちづくり協議会」の取組をお手伝いしています。

協議会がまちづくりビジョン

に掲げる「風格と華やきの烏丸」の実現に向けた取組のひとつとして、夜も安心して歩ける通りにするために必要か、ということを考えています。

烏丸通はオフィスが集積している印象がありますが、近年は宿泊施設の立地も増えており、夜も安心して歩ける環境も大切ではないか、ということなのです。

であれば、まずは実態を知ることが必要だろう、ということでも、協議会メンバーに加えて、照明のプロフェッショナルであるLPA（ライティング・プランナーズ・アソシエーツ）さんと「烏丸通照明探偵団」を行いました。

当日は、いまあるあかりを確認したり、街路樹や建物の壁を懐中電灯で照らしたりして、烏丸通にとって「良いあかり」と「イマイチなあかり」を考えました。

現状を踏まえて、何から始めるとよいのか、引き続き皆さんと考えていきます。



磐田市小中一貫校の構想・計画 —新時代の新たな学校づくりに向けて—

間瀬高歩：
建築プランニング・デザイングループ

静岡県磐田市では、子どもたちを9年間でどのように育てるかを地域とともに考えています。

小中学校共通のビジョンや目標に基づいて豊かな学びをつくり出し、社会性や道徳性を備えた心豊かな人づくりを推進するため、平成25年度から小中一貫教育を段階的に導入し、平成28年度からは、全ての中学校区（以下、「学府」）で小中一貫教育が実施されています。

当社では、平成26年度に磐田市全体の小中一貫校整備構想策定を担当し、平成28年度からは2つの学府の小中一貫校整備基本構想・基本計画策定を担当しました。平成28年度に担当した「ながふじ学府（豊田中学校区）」では、令和3年4月に磐田市の施設一体型小中一貫校として開校されました。令和2・3年度は、「向陽学府（向陽中学校区）」を担当しました。

向陽学府小中一貫校のコンセプトは、人と人とのつながりを深め、児童生徒が多様な人とかわる中で「こころざし」や「たくましさ」を育んでいくことを目指す磐田市の方針、向陽学府に立地する多くの福祉施設、豊かな自然に恵まれた環境、向陽学府の小中一貫教育が目指す子ども像をふまえ、学校づくりの

コンセプトを『日本一やさしさが育つ学校』としました。このコンセプトを実現していくための多機能型施設として、地域の方との多様な体験活動を創出する「家庭科調理室併設ランチルーム」、地域の方との連携を促進する「地域連携室」、福祉施設との交流を支援する「福祉交流支援室」の3施設に加え、災害時の炊き出しにも対応できる「共同調理場」を計画しました。

今後、向陽学府小中一貫校が地域にとって愛着のあるものになっていくとともに、地域がより活性化され、子どもたちに「たくましさ」「やさしさ」が育まれることを心より願います。

※「学府」は、磐田市における中学校区の学校群の呼称、「一貫校」は、磐田市における一貫校の呼称です。



多機能型施設の活動イメージ

キャンプあるある「思ったよりも重労働」

筈谷友紀子：

都市・地域プランニンググループ



最近では、新型コロナウイルスの影響により、密にならないアウトドアが注目されています。その中でも、「キャンプ」はアニメや漫画、バラエティに取り上げられたり、SNSでも人気を集めています。キャンプの魅力とは何なのか、キャンパーが良しとするフィールドとはどんな

この度、兵庫県猪名川町の観光振興基本計画の改定支援を行っています。

猪名川町には阪神地域で一番高い山（六甲山系を除く）があり、その名も大野山といわれています。山頂には天文台とキャンプ場があり、町内外から観光客が訪れています。今回の改定支援では、猪名川町の観光の目玉でもある大野山の将来ビジョンの策定も行っています。



ものなのか、その真相を探るべく実際にキャンプに行ってみました。

当日はまず食材調達から、というところで猪名川町で最も訪問客が多い施設である道の駅いながわに立ち寄り新鮮野菜を調達しました。他にも猪名川町でブームを巻き起こしつつあるパン屋さんで食パン、有名なバリスタさんがいるコーヒースhopでドリッパックを調達しました。猪名川は自然だけでなく食の魅力なのです。

その後はテント・タープを張り、調理の段取りをはじめ気が付けば3時。遅い昼食になりましたがキャンプ飯の完成です。キャンプは実際に体験してみると、想像よりも重労働でした。

例えば、車の乗り入れができたり、最低限の物販機能があればキャンパーの負担は少なくなります。持続可能なキャンプ場、自然好きに愛される大野山を目指して、課題の改善に取り組んでいきたいと思っています。

八王子の中心市街地に新たな拠点が誕生します！

貴船律子：

地域産業イノベーショングループ



黒塀と柳が「和」を演出する店舗通り



大広間はオープン形式になっており賑わい広場からも観覧できます

花街を活かした地域振興拠点の整備に向けて

東京都の西部多摩地域、新宿駅からJR中央線で約50分の位置にある八王子は、江戸時代には絹織物産業（多摩織）・養蚕業が盛え、「桑都」と称されていました。呉服関係等の事業者の社交場として、花街もでき賑わいを見せました。現在もJR八王子駅近くの中町に多摩地域で唯一となった花街が現存し夕刻になると黒塀から三味線が聞こえてきます。

賑わいと起業の創出を図る
当施設の機能は、大きく3つの機能に分かれており、花街の風情や歴史を活かした文化産業の強化を図る「伝統文化発信機能」、インキュベーションとしての「新たな老舗創出支援機能」、伝統文化人材育成機能、中心市街地での回遊と滞留・交流による楽しさを創出するための「商機能、四季を彩る演出・誘客機能」から構成されます。

施設は、約千平方メートルの敷地に、「黒塀」のある花街の雰囲気モチーフにしたデザインを施し、八王子踊りや八王子太鼓などの地域の文化的催しや花街の芸妓さんの踊りなどを楽しめる大広間、出店を志す人のためのチャレンジショップ、中庭にはイベントや飲食が楽しめるにぎわい広場を整備します。花街や地域の文化を楽しめることで地域全体の集客を図り、チャレンジショップで力をつけた店舗は近隣地域での出店につなげていきます。

現在、建築中で令和4年夏ごろのオープンを目指しています。開設されましたら是非、訪ねてみてください。

※この業務は、地域再生デザイングループの三木健治、建築プランニング・デザイングループの三浦健史も担当しています。

新人紹介

人を笑顔に、地域を元気に
できる仕事を目指して



有田建哉
地域産業イノベーショングループ

有

田建哉です。はじめまして。
2021年10月1日入社で、地

域産業イノベーショングループに配属となりました。出身は京都府城陽市です。高校まで京都で過ごし、卒業後は九州の企業に勤めていたため、久しぶりの京都暮らしです。

趣味は、旅行とマラソンです。大学時代に、1年間休学して世界の国々を30カ国ほど周って来ました。大学では土木工学科で国土計画学を学んでいたのですが、「世界の都市を自分の目で見に行きたい!」と思ったのが旅のきっかけです。

発展途上国に訪れた際、正直この国に生まれなくて良かった!と大人

気ないことを思いながらも、心の底から日本の発展に寄与した先祖に感謝する気持ちを強く持ちました。

先進国では、お洒落で利便性の高いコンパクトな都市に見惚れると共に、人種が異なるだけでこれ程に価値観や考え方が違い、それが「まち」へ直接的に表現されるのかと驚きました。日本にもまだまだ発展の余地がありそうだと思います。まちづくりを通して次世代のために全力で日本に貢献したいと思うようになりました。

現在もずっと日本を知りたいという思いが膨らみ、47都道府県をゆっくりじっくり味わっています。その一方でフルマラソンをしています。個人的にフルマラソンは地域に触れる絶好の機会だと思っています。沿道からの熱い応援も、給水エリアに置かれた特産品も、地域の水も空気も日差しも、全部ひたひたまで4時間ちよつと堪能できます。興味があれば是非一緒に楽しみましょう!

僕は人が好きです。アルパックで働き、老若男女問わず、誰かがニコッと笑ってくれる仕事ができればいいなと、ひいては少しでも豊かな日本になれば良いなと願っています。愛せるものをつつとつくつていければと思います。今後とも、よろしくお願いたします。

滋賀

「デニムの神様がいる商店街」

滋賀営業所 浅田麻記子

滋賀営業所の近くにある

本町商店街にはデニムの神様がいるのはご存じでしょうか?先日某テレビ番組に出演されており、芸能人のお客様も多い、かなり有名な方です(詳しくは「デニムの神様滋賀県」で検索)。

アルパックでも業務の中でシンポジウムに登壇いただいたり、ヒアリングにお付き合いいただいたり、お世話になっています。私自身、デニムの神様のことは存じていたのですが、久しぶりに本町商店街を歩いてビックリ!バナーフラッグがデニムになっているではないですか!!さらに、商店街会長のお肉屋さんでっかいデニムの暖簾がかかっているではないですか!!デニムの神様のプロデュースで商店街の雰囲気が一気に変わっていました。

その他、商店街の空店舗を自分や仲間のお店としてオープンさせており、以前よりもちょっと一味違う雰囲気の商店街になってきています。滋賀営業所のあるまちは、こんな変化も起こって、これからますます楽しみなまちです。滋賀営業所の看板もデニムで作ってもらいたいですね。これからも東近江市のよい変化に乗った滋賀営業所も運営を行っていかれると思っています。



デニムの暖簾

大阪

「多様性と大阪事務所」

大阪事務所 近江篤

新型コロナウイルス感染拡大をきっかけに、「多様な働き方をしよう」「多様な人材を採用しよう」等、「多様性」をフレーズとした取組みが世間一般に広がってきました。

「多様性」を意識するようになった背景として、①少子化や人手不足といった日本の雇用危機、②暗記を中心とする自由な発想を妨げてきた学校教育に限界が間近に迫っていることを若い世代を中心に日本国民が気付き始めたなどがあるのではないのでしょうか?

そんな中、大阪事務所は「多様な人材が交わる場所」として機能しているのではないかと考えてます。大阪事務所には営業活動を通じ、多様なステークホルダーと接する機会が多々あります。また事務所を一步外に踏み出し周辺を見渡すとビジネス街があり、重要文化財・金融機関・教育機関・医療機関・宿泊施設や飲食店等が建ち並び、訪日外国人を含む幅広い年齢層の人たちが行き来する空間が広がります。

「多様性」の本質的な意味を考える上で、出社すると何か新しい発見や気付きがあるのではないかと毎日ワクワクしながら、私は出社しております。読者の皆様、お近くに来られる際は大阪事務所へお立ち寄り下さい。

事務所だより

アルパック ANNUAL REPORT 2021 をリリースしました

「私たちはどこに行くのか？」アルパック・アニュアルレポートの冒頭の言葉です。新型コロナウイルス感染症の中で、どのように社会を捉え、どのような新しい社会を構想し、どのように動いていくかが問われています。

アニュアルレポートは文字通り「年報」で、アルパックが当年度に関わった多様な業務や活動、メンバーなどをまとめて掲載しています。1年間のアルパックをみなさんにお知らせするとともに、専門家としての課題認識や提案を社会に投げかける役割も持たせています。

今回掲載しているトピックスは「気候変動対策（脱炭素・適応）ー勝負の10年ー」「『稼ぐ力』を核とす

る地域経済循環」「プランニングにおけるデジタルシフト」「継続性を重視した一気通貫の『官民連携』」です。

私たちは、このアニュアルレポートを通じて、「私たちはどこに行くのか？」について、1年1年着実に進み、世に問い続けたいと思っています。当社ホームページからダウンロードできますのでぜひご覧ください。

（担当 原田弘之・中川貴美子）

ANNUAL
REPORT
2021

株式会社 地域計画推進研究所
アルパック
Rikimori Research Institute for Regional Development, Kyoto

適塾路地奥サロン報告

適塾路地奥サロン実行委員会

38回 2021年
9月17日

「名古屋錦二丁目地区のエリアマネジメント～構想をうごきに、うごきを仕組みに～」

講師 錦二丁目エリアマネジメント（株）
代表取締役 名畑 恵氏

第38回適塾路地奥サロンでは、錦二丁目エリアマネジメント株式会社代表取締役の名畑恵氏をお招きしお話をいただきました。

講演では、錦二丁目地区でのこれまでのまちづくりの取組やまちづくり構想の策定、錦二丁目エリアマネジメント株式会社設立までの経緯や地区の課題など錦二丁目地区のまちづくりに関わるお話を様々ご紹介いただきました。錦二丁目エリアマネジメント株式会社は地域の地縁組織により立ち上げられ、「自分たちのまちを良くするサービスは、自分たちで開発に携わる」という考えのもと、地区の様々な主体と共に新しいビジネス実験に取り組まれています。最近では、再開発事業による地域の拠点づくりやプラットホームづくりなど新たな動きや輪が広がりつつあります。また、錦二丁目地区では単体の企業ではできないことを地域で連携し、話し合いを進めることでSDGsや暮らしに資する事業が少しずつ開発されています。再開発による拠点の運営等により事業をまわしつつ、一方で生活に資するような新しいサービスを生み出すことで、にぎわいがありつつも安心して暮らせるまちづくりが進められています。最後に、都心の中であっても、コミュニケーションがあり地域の子供はみんなの子供のように見守ることのできる、安心して暮らせるまちを目指していると話いただきました。（松川育世）

39回 2021年
10月27日

「地方創生で注目される兵庫県豊岡市野“農業のまちづくり”～これまでとこれから～」

講師 豊岡市役所コウノトリ共生部農林水産課
グッドローカル農業推進室室長 山本 隆之 氏
（株）坪口農事未来研究所代表取締役 平峰 英子 氏

第39回適塾路地奥サロンでは、現在、私が出向している豊岡市役所農林水産課グッドローカル農業推進室の室長・山本隆之氏と、豊岡市で環境と持続可能な農業を目指して先進的な取組を行う株式会社坪口農事未来研究所の平峰英子氏を講師としてお招きしました。

山本氏からは、農業のまちづくりの“これまで”の取組として、生きものとの共生を目指した環境にやさしい「コウノトリ育む農法」の推進や、水稲作関連のスマート農業等、“これから”の取組として、持続可能で幸せを感じる社会に貢献する農業のあり方「豊岡グッドローカル農業」の推進等についてお話いただきました。

また、平峰氏からは展開されている農業の事業や今後の展望等をご紹介いただきました。農地で農産物と電気を生産するソーラーシェアリングや、圃場や乾燥施設の管理等を効率化・省力化するスマート農業など、投資を伴う事業ですが、未来を見越して確かな経営をされており、今後の持続可能なまちづくりを考える上でも刺激的なお話だったように思います。

今回のサロンを通じ、農業の課題や魅力について様々な人に伝え、意見を交わすことの重要性を感じました。（遠藤真森）

近況 & イベントのお知らせ

書籍 紹介

『場所の記憶 大阪東部下町 ／旧神路村界隈とその周辺まちづくり史』

竹内睦男著 南風舎

坂井信行

都市・地域プランニンググループ

ディープなまちづくり史に触れる一冊

旧神路村と聞いて、大阪の人でもピンとくる人は少ないのではないのでしょうか。現在の地名では概ね東成区の今里界隈に相当するようですが、地図を見る限り神路小学校にその他をとどめるに過ぎません。本書は、都市プランナーの竹内睦男氏によって自身が生まれ育った旧神路村界隈の「場所の記憶」について、まちづくり史という切り口から極めて丁寧に語られた入魂の書です（少なくとも私はそう受け止めました）。

この地に人びとが住み始めた古墳時代末期から始まり、難波京域の一角であった時代、四天王寺の新莊園であった時代を経て、その後、奈良へと向かう暗峠奈良街道が開設され、江戸時代には幕府直轄領となり、明治の合併により神路村の前身である南新開荘村が誕生、このあたりまでが第1部の「まちづくり前史」。大阪の市域拡張とともに1925（大正14）年に大阪市に編入、ここからが本編である第2部の「地域まちづくり史」の始まり。大正期からの100年余りのまちづくりの歴史が記述されます。さらに地域の歴史に関わるいくつかのエピソードが第3部の「まちの記憶」として追記されます。

本編の構成として、各事項ともはじめに大阪市全体

のまちづくり史があって、その後に旧神路村界隈のまちづくり史が語られます。いくつかトピックが紹介された後に「つまりこういうことだ」と総括されるスタイルで、頭に入りやすいのですが、旧神路村のディープなまちづくり史については土地勘がないと読み

こなすにはなかなか骨が折れるのも事実。一方の大阪市全体のまちづくり史については、私自身も業務で多少関わりを持ったことに関連する内容も含め、初めて知ったことがたくさんあり興味深く読みました。

近年、まちづくりで扱うべき対象やその手法も新たな領域へとますます広がっています。しかし、都市や地域のまちづくり史を丹念にひも解き、その前提の上に未来の姿を描いていくべきであることは、これからも変わることはないはずです。世の中が目まぐるしく動いていく時代であるからこそ、そうした点を改めて思い起こさせてくれる本書の存在意義は大きいと思います。



全社研修会を開催しました ～働き方とコミュニケーション～

嶋崎雅嘉

全社研修会実行委員会

10月22日にアルパックの全社員が参加する研修会を開催しました。新型コロナ対策の観点とテーマとの親和性を考慮して、今年もオンラインでの開催です。今年のテーマは「働き方の多様性とリモート（を含む）チームワークを考える」です。

アルパックが今後、より一層多様な働き方を包摂し、多様な属性のスタッフが参加することで、よりよい仕事ができるダイバーシティ組織として経営されるためにはどのようなことが必要か全員で考えました。

午前中は、京都大学総合博物館の塩瀬隆之先生に組



オンライン上で行うワークショップツール（miro）を活用した意見を整理しました！

織としての多様性やチームワーク力を引き出すための「コミュニケーション」や「問い」のポイントや、心理的安全性の作り方、インクルーシブデザインの有効性などについてご講演いただきました。午後は塩瀬先生の講演も踏まえつつ「自分らしく働ける環境」「リモート時代にチームワークを高めるコミュニケーション」に関する2つの問いを設定して年代別のディスカッションを行いました。

現状の働き方に対する課題や将来像、コミュニケーションにおいて必要な配慮点などについて、多くの意見が出され、年代ごとの違いも確認できました。今回の研修会での議論は、参加者一人ひとりの気づきや行動変容につながるだけでなく、会社として、チームとしてどのような将来像を目指して動くのか、引き続き取り組むためのスタートにしたいと思います。



芦屋川～月若橋より駅方向を望む

馬場正哲：
顧問・主席研究監

「芦屋川駅前・暮らしまちづくり ビジョン」を地域でつくろう

「芦屋」というとどのようなイメージを持たれるでしょう

北に六甲山、南に大阪湾が迫り、そこを南北に「芦屋川」が流れ形成された扇状地で、典型的な天井川となつていきます。この山麓部に位置する「阪急芦屋川駅」は北の玄関口で、旧芦屋村の中心地でした。歴史は古く、北山麓に弥生時代中・後期の「会下山遺跡」があり、飛鳥・奈良・平安期には菟原郡の役所（郡家）が置かれたと言われ重要な地域でした。また、小倉百人一首で有名な猿丸太夫の子孫を称する旧家があったり、在原業平が別荘をもうけ遊んだ

とされるなど、文化的な風土でもありました。大正9年に阪急電鉄神戸線が開通し、芦屋川上に駅が開設されました。明治・大正期に大阪の郊外地として、別荘（住宅）開発が進み、船場商人や企業勤労者が住まうようになり文化的な彩りが添えられたといえます。

芦屋に相応しい暮らしあふれる駅前を

谷崎潤一郎の『細雪』にこの阪神間の生活文化が描かれています。この作品の中でもとりあげられている「阪神大水害」は、昭和13年7月の大雨で大きな被害を受けました。その後の復旧事業によって、河川の護岸堤や鉄道と道路との立体交差がなされ、コンクリートで固められた現在の芦屋川駅前となつていきます。

駅南の月若町で、まちづくり協議

会を立ち上げ、地区計画を提案したおりにも、この駅前の道路が狭く、駅前広場のような乗換えのスペースが無いことによる交通の危険性や、芦屋川特別景観地区である玄関としても相応しくないことを指摘しました。同時に駅周辺は、少子・高齢化が進行し、以前は賑



川沿いのバス停より芦屋川駅を望む

水害前の芦屋川駅、北側の桜橋から
(出典：精道村のあゆみ)

わっていた商店街は、若干の飲食店、商店、住居、小規模共同住宅、閉店した店舗が密集し防災上も懸念されます。誇らしかった芦屋市の北の玄関としての風情や生活感を再生していくことが望まれています。

住民有志が「芦屋川駅周辺地域の生活環境を考える会」を立ち上げ

行政に整備の要望をしていますが、一方的に行政に頼り、任せているだけではなく、住民目線で意見を出していくことが大事だと話し合いを続けてきました。地域にとって包括的に協働・連携を住民有志で取り組もうと「芦屋川駅周辺地域の生活環境を考える会」を立ち上げ、まず「芦屋川駅前・暮らしまちづくりビジョン」を住民発意でつくり出すと動き出しています。課題対応のハード先行ではなく、暮らしビジョンから、商店街や地域活動の連携を育てながら、行政との協働によって、具体の駅前整備を実現していこうと考えています。

表紙写真：霊気宿る平塚八幡宮の大銀杏（撮影 坂井信行）

「レターズアルパック」は、ホームページからご覧いただけます。

アルパック (株) 地域計画建築研究所

Architects, Regional Planners & Associates, Kyoto
<https://www.arpak.co.jp> E-mail: info@arpak.co.jp

本社・京都事務所

〒600-8007 京都市下京区四条通高倉西入立売西町82 TEL(075)221-5132 FAX(075)256-1764

大阪事務所

〒541-0042 大阪市中央区今橋3-1-7 日本生命今橋ビル10F TEL(06)6205-3600 FAX(06)6205-3601

名古屋事務所

〒450-0003 名古屋市中村区名駅南1-27-2 日本生命笹島ビル17F TEL(052)462-1030 FAX(052)462-1061

東京事務所

〒101-0047 東京都千代田区内神田1-15-7 ユニゾ内神田1丁目ビル4F TEL(03)5244-5132 FAX(03)6273-7715

九州事務所

〒810-0802 (株) よかネット：福岡市博多区中洲中島町3-8 福岡パールビル8F TEL(092)283-2121 FAX(092)283-2128

滋賀営業所

〒527-0012 東近江市八日市本町9-14 TEL(0748)36-2065 FAX(0748)36-2168

ホーチミン（ベトナム）No.187/7, Dien Bien Phu Street, Da Kao Ward, District 1, Ho Chi Minh City, Vietnam

この用紙は「びわ湖の森を元気にする」
kikitoペーパーを使用しています。